

新しい都市構造のあり方

丹波市まちづくりビジョン

概要版

丹波市

令和元年11月

まちづくりビジョンは、「未来の丹波市の姿」を描くものです

全国的に本格的な人口減少社会が到来する中、本市においても人口減少・少子高齢化が進むことが予測されます。

また、まちづくりの核となる県立丹波医療センターや丹波市健康センターミルネの整備は、大きく都市環境に変化をもたらすことが予測されます。

このようなことから、将来にわたって、市民が住み慣れた地域で生きがいを持ち、安心して生活できるよう、全市的な視点からまちの変化に対応した新しい都市づくりが求められます。

この「まちづくりビジョン」は、未来を見据えて、時代の変化に対応した持続可能な都市経営の実現により、まちの活力の維持・向上を図り市民の暮らしを守るとともに、市民が将来にわたって夢と希望を持って本市で暮らし続けるための「未来の丹波市の姿」を描くものです。

「未来の丹波市の姿」とは？

未来の『都市機能や機能配置などのあり方を示した都市構造』とその時の『丹波市民の暮らしの姿』のこと

想定する未来の年次とは？

団塊の世代の全てが85歳に到達することとなる、概ね20年後の2035年頃を想定

位置付け

丹波市総合計画などの上位計画をはじめ、各個別計画を踏まえつつ、中長期的な視点から丹波市の姿を描く「未来像」

● まちの課題とビジョン実行後のまちのイメージ

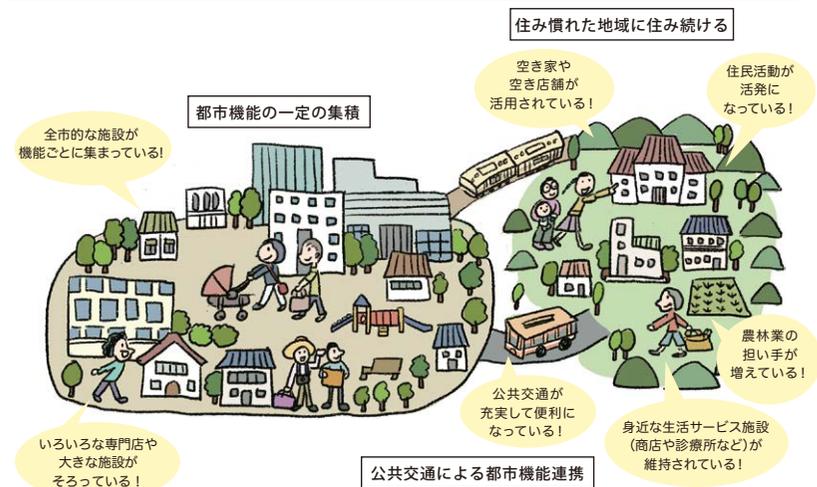
人口減少・少子高齢化に伴う社会環境の変化



このまま放っておくと起こりうるまちの課題



ビジョン実行後のまちのイメージ



未来に向けて、このようなまちをめざします ①(まちづくりの方針と方向性)

◆ 未来に向けたまちづくりの方針

「まちづくりビジョン」は、未来に向けたまちづくりの方針として『まちの姿』と『暮らしの姿』を設定します。

【まちの姿】

市の中心部には、全市的な都市機能の一定の集積が見られるとともに、それぞれの地域には、自然・田園環境と調和したまちなみと日常生活に必要な生活環境が維持され、全市的に都市機能の役割分担が明確化されています。

まちの姿は、時代の変化に対応した効率的で利便性の高い都市機能と自然・田園環境と調和したまちなみ、日常生活に必要な生活環境が構築された姿を描くものです。

【暮らしの姿】

市民は、夢と希望と誇りを持って住み慣れた地域で暮らし続ける中で、必要な時には市の中心部に掛り、集積された都市機能サービスを手に入れることができます。

暮らしの姿は、市民が将来にわたって、文化・風土・人のつながり・豊かな自然を大切にしながら生きがいと生業を持って生活する姿を描くものです。

◆ 未来に向けたまちづくりの方向性

『まちの姿』と『暮らしの姿』の実現に向けて、まちづくりの基本的な2つの方向性を定めます。

第1の方向性

市の中心部に都市機能の一定の集積を進める都市デザイン

市中心部への都市機能(行政・商業・医療福祉・文化芸術・観光など)の一定の集積により、都市としての機能の強化を図り、全市的な都市サービスを効率的に提供できるまちづくり

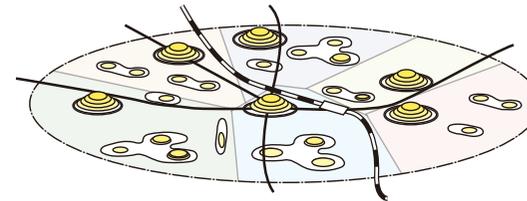
第2の方向性

住み慣れた地域に住み続ける生活スタイル

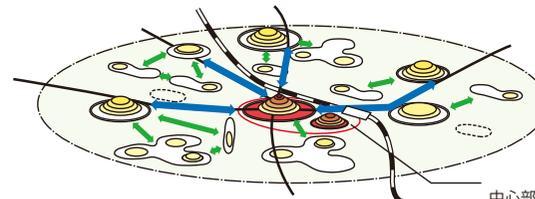
生まれ育った地域において、生きがいと生業を持って暮らし続けることができる、あるいは、自然との触れ合いなどを求める人が移住したくなるよう、生活サービスの維持・向上と、居住場所に限らず集積された都市機能サービスを受用できるまちづくり

● 現在のまちのイメージと将来めざすまちのイメージ図

【現在のまちのイメージ】



【将来めざすまちのイメージ】



○ 中心部

→ 中心部と各地域の交通連携の強化

→ 各地域においても集落等との交通連携の維持・確保

○ 山は都市機能を示し、その高さは集積密度を表す

- 各地域には集落があり、全市的な都市機能は、複数の拠点等に分散立地しています。
- 一部の集落では、人口が減少傾向にあり、持続性が失われつつあります。

- 中心部に全市的な都市機能の集積が図られています。
- 各地域には、日常生活に必要な都市機能が維持されています。また、地域特性を活かした産業が営まれています。
- 中心部と各地域は、公共交通によって結ばれています。
- 全体的に人口は減少するものの、中心部及び各地域の市街地では一定の人口密度が保たれています。

未来に向けて、このようなまちをめざします ②(都市機能の配置)

中心部のあり方

中心部は、持続可能なまちの形成に向けて、全市的な都市機能の一定の集積を進め、日常的なまちの賑わいを創出するまちの核として位置付けられるエリアです。

行政・商業・医療福祉・文化芸術・観光などの機能を回りつつ、それらの都市機能の連携を強化することで、都市として一体的なまちの活力を創出するとともに、生活利便性が高い市街地を形成します。

中心部以外のあり方

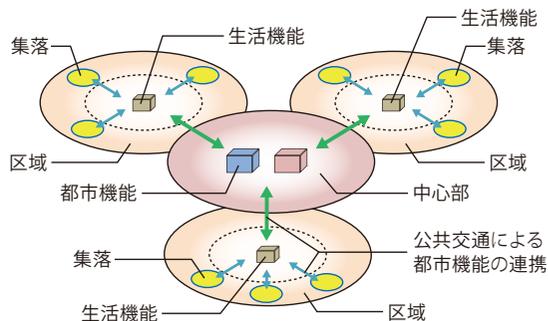
中心部以外は、持続可能な暮らしの実現に向けて、生活サービス機能の維持を図り、森林や農地などの豊かな自然と集落が調和した、暮らしの区域として位置付けられるエリアです。

森林や農地などの豊かな自然環境が残る中で、子育て環境をはじめ生活環境が整った、あたたかいコミュニティが形成され、地域の特性を活かした生業を営み、心の豊かさを大切にしたい暮らしを送ることができる充実した生活環境を形成します。

都市機能の連携のあり方

中心部の都市機能と各区域や地域の生活機能は、利便性の向上による快適な移動環境が構築された公共交通によって結びます。

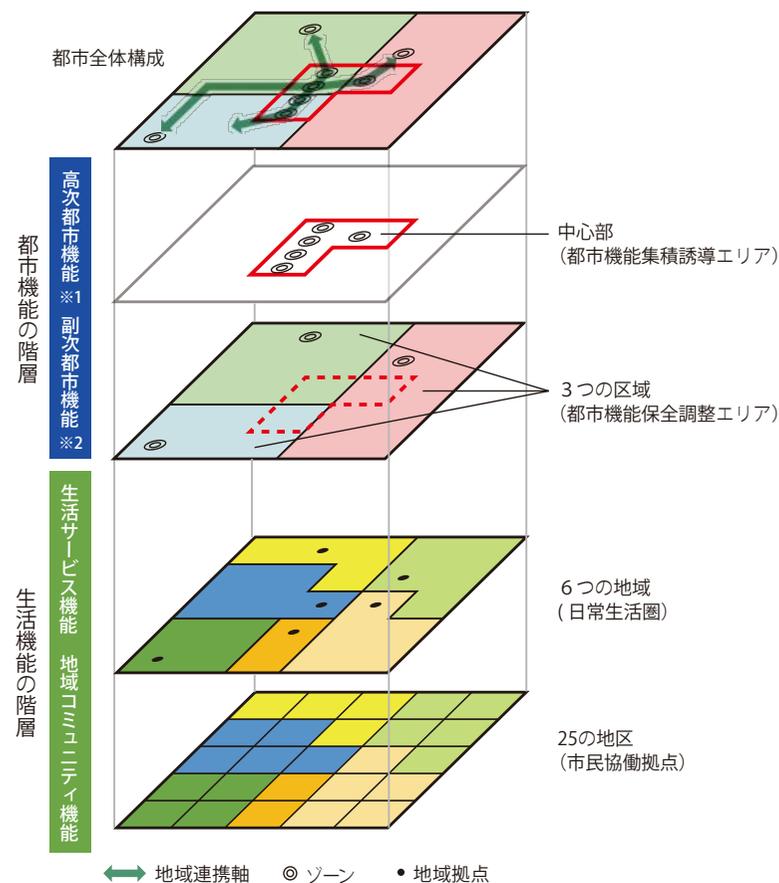
● 都市機能配置のイメージ図



都市機能配置に係る階層性の考え方

都市施設の集積・連担の状況や地理的条件などから、丹波市全体を「1つの中心部と3つの区域」の都市機能の階層と「6つの地域と25の地区」の生活機能の階層の2つの階層の構造化で構成します。

● 都市機能及び生活機能配置に係る階層性のイメージ図



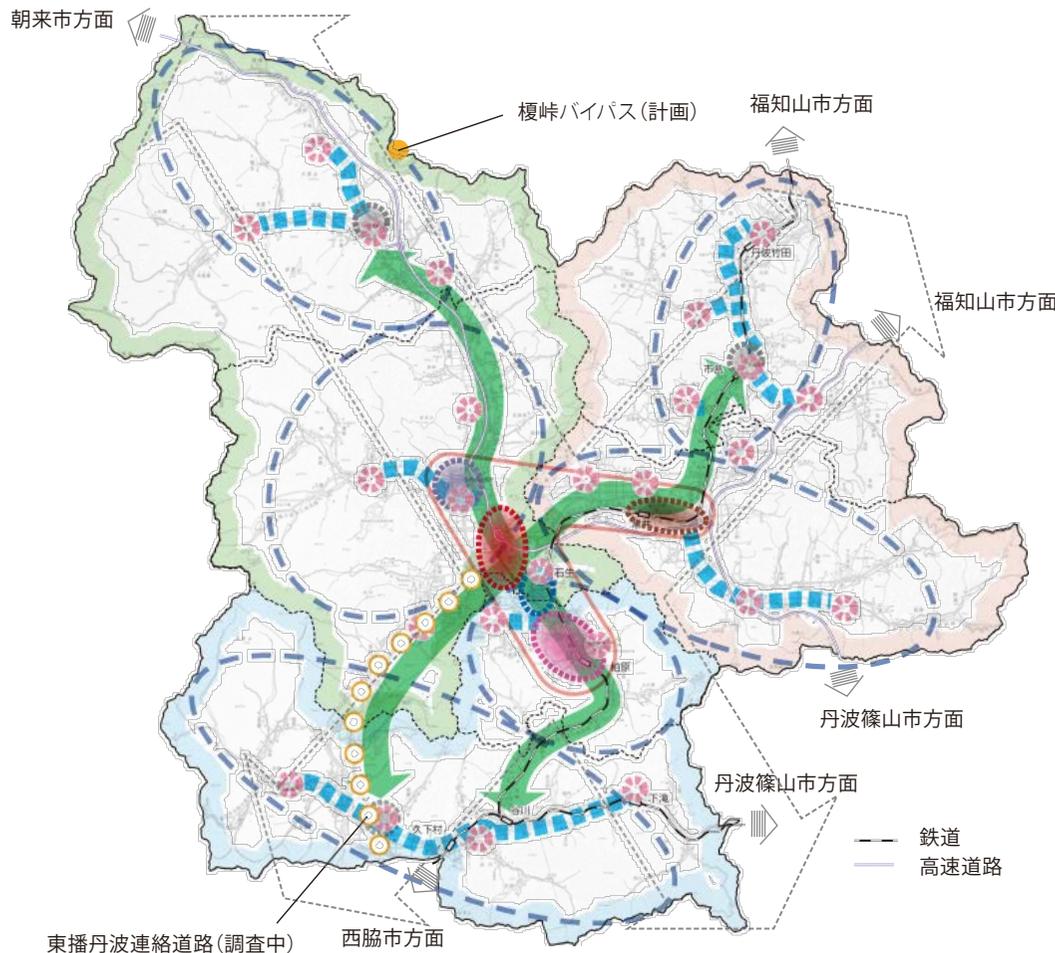
※1 高次都市機能:全市的で高度な都市機能
 ※2 副次都市機能:区域範囲の暮らしを支える都市機能

未来都市構造のイメージ

この図は、丹波市の未来都市構造をイメージで表現したものです。

中心部には、全市的な都市機能の一定の集積を図るため、今ある都市機能を生かしたゾーニングを行い、3つの区域には生活利便機能の維持を図るための生活関連サービス集積ゾーンを設け、それらを交通ネットワークで結びます。

● 未来都市構造のイメージ図



凡例		
	中心部	行政・商業・医療福祉・文化芸術・観光などの全市的で高度な都市機能が集積、立地するエリア
	区域	中心部以外のエリアで、地理的条件や地域のまとまりなどを踏まえた、都市機能の圏域となるエリア
	日常生活圏	歴史的なつながりの強い既存の集落や地区のまとまりで、デマンド(予約)型乗合タクシーの運行が維持され、地域ごとのコンパクトで持続的な暮らしを形成する圏域
	市民協働拠点	市のまちづくりの根幹となる住民主体の自治活動の拠点として、多様な生活支援サービスが提供される拠点
	広域連携軸	鉄道や高速バス、高速道路網及び主要国道からなる広域的な移動、連携、交流を図る交通軸
	地域連携軸	中心部内や中心部～区域の移動、連携、交流を支える公共交通による交通軸
	生活連携軸	地域連携軸を補完するとともに、地域内での移動や連携、交流を支える交通軸
	商業業務ゾーン	まちの賑わいと活力を創出する商業・業務サービス施設等が集積するゾーン
	医療福祉ゾーン	県立丹波医療センターと丹波市健康センターミルネを核とした、医療福祉関連施設が集積するゾーン
	行政ゾーン	防災など県と市の連携強化が求められる新たな行政課題等への対応を図れるように公共的サービス機能の充実、強化を図るゾーン
	文化芸術ゾーン	植野記念美術館や中央図書館など既存の施設の活用も含めて、文化芸術施設が集積するゾーン
	交流連携ゾーン	市内への誘客促進に向けて、広域連携・観光振興機能の充実、強化を図るゾーン
	生活関連サービス集積ゾーン	日常の生活に必要な行政窓口・生活サービス・医療・福祉機能や地域特性を活かした生業を支える機能等の充足を図るゾーン

稲継交差点付近を中心とする沿道市街地と氷上町成松周辺及び柏原町柏原周辺の既成市街地と春日インターチェンジ周辺から春日町黒井周辺の既成市街地を結ぶ範囲を市の中心部と位置付けます。

中心部は、各分野の都市機能が集積することで利便性向上やコスト削減等の効果が発揮できるよう、既存の都市機能の集積状況を基盤としてゾーニングを行い、同じ分野の都市機能の立地誘導を図ります。

中心部のあるべき姿

行政・商業・医療福祉・文化芸術・観光などの機能の充実を図りつつ、それらの都市機能の連携を強化することで、都市として一体的なまちの活力を創出するとともに、生活利便性が高い市街地を形成します。

◆ 今後の方向性

文化芸術ゾーン

(植野記念美術館や中央図書館の周辺)

文化芸術の振興と発展を創出する「文化芸術ゾーン」として位置付け、優れた文化芸術に気軽に触れられる機会の創出、強化を図ります。

商業業務ゾーン

(稲継交差点を中心とする沿道市街地周辺)

まちの賑わいと活力を創出する「商業業務ゾーン」として位置付け、広域的な集客力を持つ大型商業施設等を核として、全市的な生活利便機能の充実、強化を図ります。

医療福祉ゾーン

(JR石生駅周辺から県立丹波医療センター周辺)

暮らしの安心を提供する「医療福祉ゾーン」として位置付け、地域医療の充実に向けて、全市的な医療・福祉・保健機能等の充実、強化を図ります。

交流連携ゾーン

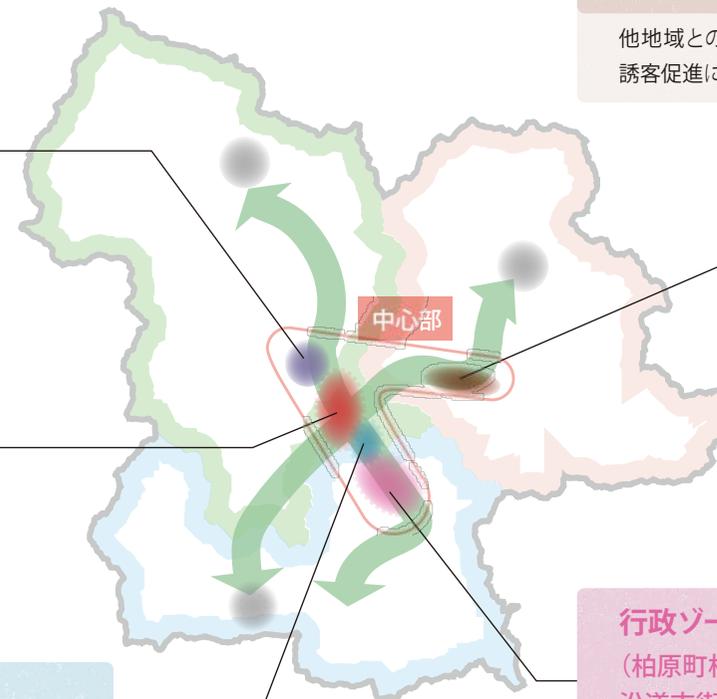
(春日インターから丹波市役所春日庁舎の周辺)

他地域との広域交流を促進する「交流連携ゾーン」として位置付け、誘客促進に向けて、広域連携・観光振興機能の充実、強化を図ります。

行政ゾーン

(柏原町柏原の中心市街地から丹波警察署までの沿道市街地周辺)

防災など県と市の連携強化が求められる新たな行政課題等への対応が図れるよう「行政ゾーン」として位置付け、公共的サービス機能の充実、強化を図ります。



3つの区域

生活サービス機能を維持し、豊かな自然と集落が調和した生活環境の形成をめざします

地理的条件、地域のまとまりなどから市域北西側（青垣地域+氷上地域）を「西部区域」、市域北東側（市島地域+春日地域）を「東部区域」、市域南側（山南地域+柏原地域）を「南部区域」と3つの区域として位置付けます。

各区域における生活機能の維持・向上を図る役割を担うため、「生活関連サービス集積ゾーン」を配置します。

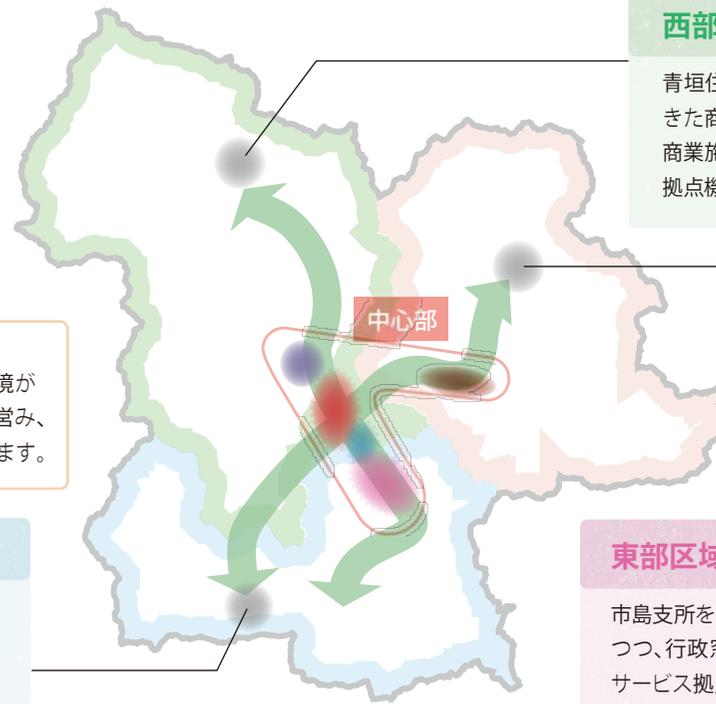
3つの区域のあるべき姿

森林や農地などの豊かな自然環境が残る中で、子育て環境をはじめ生活環境が整った、あたたかいコミュニティが形成され、地域の特性を活かした生業を営み、心の豊かさを大切にしたい暮らしを送ることができる充実した生活環境を形成します。

南部区域の生活関連サービス集積ゾーン

小川地区の井原周辺に、山南支所における行政窓口機能や丹波竜の里の拠点機能との連携を図りながら、商業施設などの生活利便機能の集積したゾーンの形成を図ります。

◆ 今後の方向性



西部区域の生活関連サービス集積ゾーン

青垣住民センターを中心に、大学のラボやこれまで進めてきた商店街での取組等と連携し、行政窓口機能や診療所、商業施設などの生活利便機能が集積、維持されたサービス拠点機能を持つゾーンの形成を図ります。

東部区域の生活関連サービス集積ゾーン

市島支所を中心に、ライブピアいちじまとの機能連携を図りつつ、行政窓口機能及び生活利便機能が集積、維持されたサービス拠点機能を持つゾーンの形成を図ります。

利便性の高い移動環境の実現をめざします

中心部の都市機能と3つの区域や地域の生活機能は、利便性の向上による快適な移動環境が構築された公共交通によって結びます。

● 都市機能連携の方向性

中心部の全市的な都市機能サービスを楽しむように、公共交通による便利で快適な交通体系の構築に向けて、交通ネットワークの充実を図ります。

● 既存の交通資源の有効活用

各交通資源の特性を活かした適材利用に向けた取組を進め、日常の移動手段としてだけでなく「まちを巡る・まちを見る」楽しさが感じられる移動環境の構築を図ります。

● 交通機関の連携強化と道路環境の充実

デマンド（予約）型乗合タクシーによる日常生活圏の移動環境を維持しつつ、鉄道や路線バス、普通タクシー等の乗継など、各交通機関の連携強化による利便性の向上を図るとともに道路環境の充実を図ります。

● 広域交通網による他都市との連携交流

鉄道や高速バス、高速道路や国・県道などの交通ネットワークを活用した広域連携軸により、他都市との交流連携の強化を図ります。

効率的・合理的で持続可能な行政機能の実現をめざします

行政機能は、都市構造を構成する重要な要素の一つです。

市の中心部には、市民とともに市政を推進するまちづくりの拠点となる「統合庁舎」を、3つの区域には日常生活に必要となる「行政窓口機能」をそれぞれ配置するとともに、まちづくりに必要な機能との複合化や連携により、効率的・合理的で持続可能な行政機能の実現をめざします。

【 中心部における行政機能 】

統合庁舎の必要性

現庁舎の耐用年数や大規模改修に要する費用、分庁舎方式による非効率性等の課題を解決するため、行政機能が集約され、安全で経済的・合理的な行政運営を可能とする統合庁舎の整備が必要となります。

統合庁舎の役割

これからの庁舎は、行政事務や各種市民サービスを提供する場というだけでなく、住民自治及び参画と協働のまちづくりの観点から、市民とともに市政を推進する、まちづくりの拠点となることが求められます。

位置

適地の選定にあたっては、まちづくりとの整合と統合庁舎の将来像を踏まえた上で、都市機能の考え方に照らして、多面的視点から比較検証を行い決定していく必要があります。

【 3つの区域における行政機能 】

行政窓口機能の重要性

生活に関する相談業務や災害対応などの市民の安全・安心に関わる業務は、身近な生活圏での対応が求められることから、3つの区域の日常生活圏には「日常生活に必要となる行政窓口機能」を配置します。

行政窓口機能の役割

住民生活に密着した窓口サービス機能を維持することを重視しつつ、生活サービス、福祉、交流など生活に関わる機能との複合化を図ることで、地域活力の創出支援、地域のまちづくりの促進などの効果が期待される場所としての施設整備を検討します。

位置

3つの区域ごとの生活関連サービス集積ゾーンとの連携に配慮しつつ、中心部に配置される統合庁舎の計画(行政組織、機能、位置など)と一体的に検討を進めます。

庁舎等のあるべき姿

統合庁舎の位置並びに、行政窓口機能の配置とともに、それらの行政機能を補完する機能(例:文化、スポーツ、交流、観光、防災等)を含めた公共施設の配置を「庁舎等のあるべき姿(全体の将来像)」として検討し確立します。

現庁舎・支所の将来のあり方

統合庁舎の整備と併せて各庁舎の活用については、それぞれの地域特性、統合庁舎との関係、未来都市構造との整合等に照らして決定していきます。

● 庁舎等の全体の将来像イメージ図

【現在の分庁舎方式】



【将来の行政運営】



まちづくりビジョンの実現に向けた8つの分野でみる『まちの姿』と『暮らしの姿』

「まちづくりビジョン」の実現に向けて、未来に向けたまちづくりの方針に基づき、都市構造に関連する8つの分野について、めざすべき『まちの姿』と『暮らしの姿』を描き、各分野の取組方向・取組項目を整理しています。

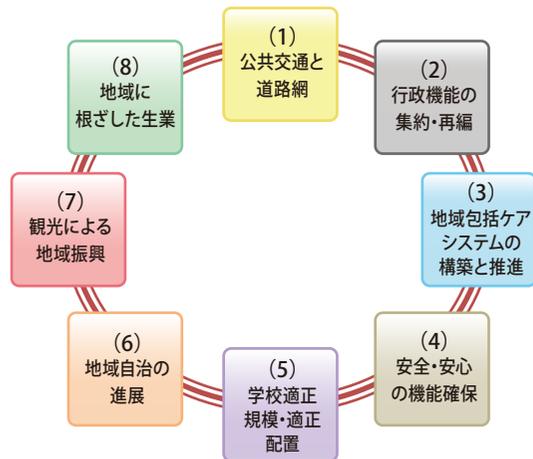
各分野における『まちの姿』、『暮らしの姿』と「実現に向けた取組項目」の一部を掲載します。

まちづくりビジョンがめざす2つの姿

【まちの姿】

【暮らしの姿】

関連施策の連携により、
未来都市構造「まちづくりビジョン」の実現へ



※実現に向けた取組項目は、概ね20年後の2035年までに取り組むことが見込まれる事項について記載しているものです。

公共交通と道路網のあり方

【まちの姿】

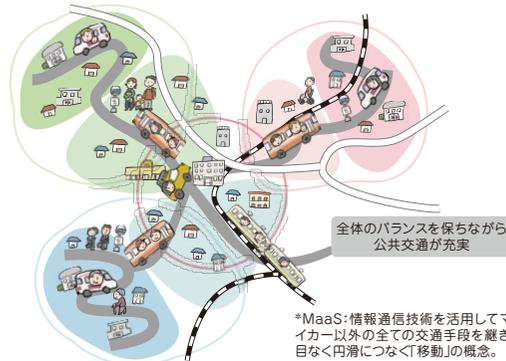
- 市内の公共交通は、全体のバランスを保ちながら充実が進み、利用者が年々増加する好循環が生まれています。
- 市の中心部とそれぞれの地域を結ぶ道路整備や狭あい道路の拡幅整備が進み、渋滞緩和や緊急車両の通行支障が解消され、安全で快適な道路環境が整備されています。

【暮らしの姿】

- MaaS*などを活用し、デマンド(予約)型乗合タクシーや路線バス、鉄道といった公共交通や普通タクシーなどの様々な交通手段を使った個々人の移動が最適化され、移動の利便性が大幅に高まっています。
- 身近な道路は、市民みんなで維持管理をしていこうという取組が進んでいます。

実現に向けた取組項目

県立丹波医療センターへの乗り入れバス路線の整備/県立丹波医療センターへの乗り入れのための既存バス路線の延伸/中心部を巡回するバス路線の新設/公共交通ネットワークの連携強化/持続可能な交通ネットワークの構築/道路整備計画の見直しによる整備・修繕対象市道、橋梁の絞り込み/市民との協働による道路環境の維持改善



行政機能の集約・再編のあり方

【まちの姿】

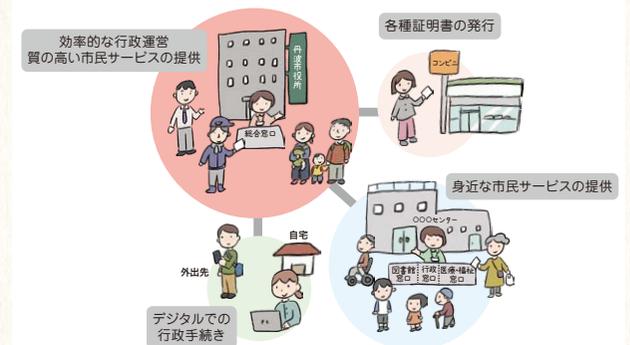
- 将来のまちづくりと併せて庁舎のあり方が検討され、中心部(最適ゾーン)内に統合庁舎が整備されています。
- 各区域の生活関連サービス集積ゾーン内には、商店などの生活利便機能とともに、市民生活に必要な不可欠な行政窓口機能を含む複合施設が整備されています。

【暮らしの姿】

- 統合庁舎では、総合窓口により関連する手続きを一度に済ませています。また、生活・健康・福祉・教育・商工観光・農林・環境など専門的な相談も行っています。
- 中心部と各区域の行政機能を使い分け、市民生活に必要な手続きを済ませる(課題を解決する)ことができ、市民の暮らしが向上しています。

実現に向けた取組項目

公共施設のあり方の検討/公共施設のあり方検討に基づく再編の実施/各種機能の複合化/公共施設の維持管理・更新経費の負担の最適化/財政健全化や行政効率化と都市機能の一定集約/統合庁舎整備の市民合意/統合庁舎整備内容の検討/庁舎周辺のまちづくり(ハード面)



地域包括ケアシステムの構築と推進のあり方

【まちの姿】

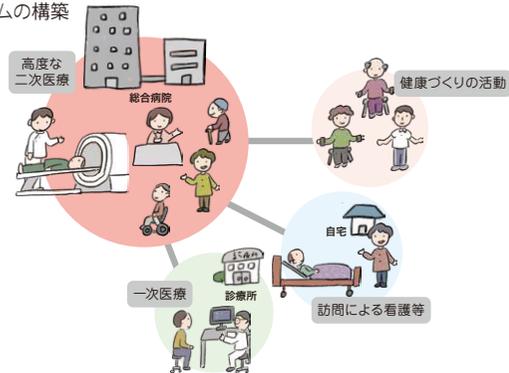
- ・県立丹波医療センターと丹波市健康センターミルネは、地域包括ケアの拠点施設として機能しています。
- ・丹波市医療介護情報連携システムで構築された予防・医療・介護・福祉サービスを利用し、かかりつけ医の一次医療を受け、県立丹波医療センターでは、高度な二次医療が受けられる体制が整っています。

【暮らしの姿】

- ・住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される丹波市版地域包括ケアシステムの構築により、住み慣れた地域で安心して自分らしい暮らしを生涯続けられるようになっています。
- ・社会福祉法人や自治協議会の活動拠点に設置されている「よろずおせっかい相談所」、「よろずおせっかい相談所サテライト」が、地域住民の困りごとの相談窓口として活用され、地域と福祉行政が一体となって、生活課題に対応する仕組みが構築されています。

実現に向けた取組項目

基幹型地域包括支援センターの設置／権利擁護センターの設置／高齢者住宅の確保／生活支援サービスの充実／地域包括ケアシステムの構築



安全・安心の機能確保のあり方

【まちの姿】

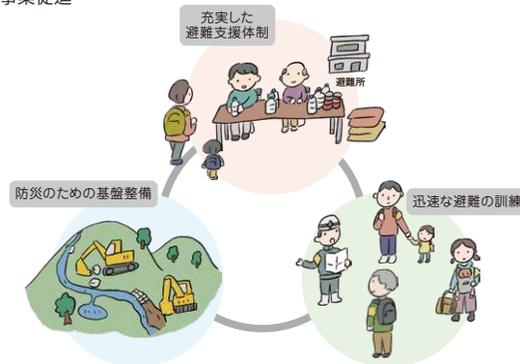
- ・市民の防火・防災に対する意識の向上と自主防災組織の成熟により、市民による迅速で的確な対応と消防団・消防本部等との連携が図られ、市民の安全が守られています。
- ・大雨による浸水対策として、河川改修や一時貯留施設の整備、流域対策の計画的な推進などの総合的な取組により、治水安全度が向上し、床上浸水被害の発生が抑えられています。

【暮らしの姿】

- ・自主防災組織と福祉関係者など様々な関係機関との連携強化により、福祉避難所の設置や避難支援体制の充実が進み、災害時に援助が必要な市民も日々の暮らしを安心して送ることができます。
- ・自然災害に対する備えが充実し、市民の生活環境の安全性と利便性が守られています。

実現に向けた取組項目

床上浸水被害発生箇所対策実施／総合治水の取組の推進／河川改修事業費の予算確保／消防庁舎の更新と署所の適正配置／各自治協議会単位の土地利用計画の策定／下水道中期ビジョン施設統廃合の事業促進



学校適正規模・適正配置のあり方

【まちの姿】

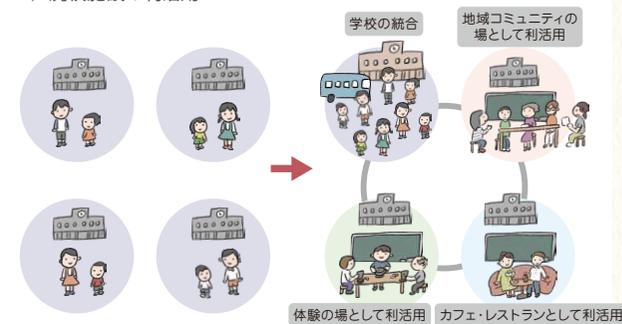
- ・学校は、地域の中で望ましい適正な配置が進んでいます。
- ・統合された学校に通学する子どもたちの通学の安全性や快適性を確保するために、スクールバスや公共交通が充実しています。
- ・廃校施設の利活用方策についての議論が進められ、地域の理解が得られる中で、生涯学習施設や民間活用施設として、廃校後、速やかに利活用が図られています。

【暮らしの姿】

- ・住み慣れた地域の中で、生き生きと活動する子どもたちの姿が見られます。
- ・充実した教育環境の中で、子どもたちは、知力、実践力に加えて、同級生や上下級生の交流を通じて、コミュニケーション力を育てています。
- ・廃校活用により地域における雇用の場が創出されるとともに、廃校活用事業者と地域住民の想いがリンクして、地域の人々が集える場所として新たに活用されています。

実現に向けた取組項目

山南中学校・和田中学校の統合／市島地域5小学校の統合／地域の人口動向や教育環境の変化を勘案した小学校の適正規模・適正配置の検討／廃校施設の利活用



地域自治の進展のあり方

【まちの姿】

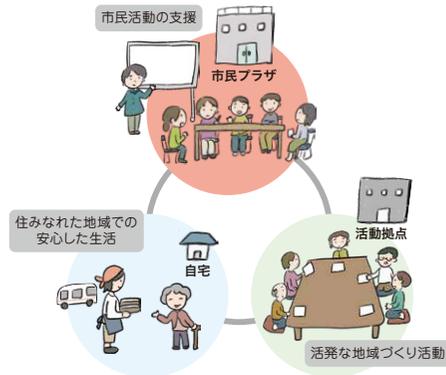
- ・「丹波市自治協議会のあり方懇話会」における議論の結果、より良い住民自治組織の運営や活動に向けて、市民と行政が共通認識を持ち、進むべき方向性が明確になっています。
- ・市民活動支援センターの充実により、自治協議会やボランティア団体、NPO団体などの活動が活発になり、組織の強化や連携が進んでいます。

【暮らしの姿】

- ・自治協議会や自治会においては、見守り活動や買物代行、配食サービスなど、地域課題に応じた様々な活動が展開され、市民は住み慣れた地域で安心して快適に暮らすことができます。
- ・市民と市民活動団体等が協働し、多様な地域づくり活動や様々なテーマでの市民活動が展開され、暮らしやすさの向上とともに、活躍市民が増えています。

実現に向けた取組項目

丹波市市民プラザの設置・運営、市民活動支援センター機能の確立／福祉センター・老人福祉センターの今後のあり方の検討／活動拠点における地域福祉活動の推進／福祉センター・老人福祉センターの今後のあり方の検討に基づく整備計画の実施



観光による地域振興のあり方

【まちの姿】

- ・地域資源を活かした観光関連施設が地域の都市機能の一つとなっています。観光産業が地域経済の発展と雇用の創出につながり、基幹産業の一つとして成長しています。
- ・新たに整備された観光施設と既存の観光施設のネットワーク化により、日帰りや滞在型の周遊モデルが整い、多くの観光客の訪問が地域経済の活性化につながっています。

【暮らしの姿】

- ・恐竜化石、かたくりやもみじの名所、本州一低い谷中央分水界「水分け」や黒井城跡、スカイスポーツ、丹波栗、丹波黒大豆、丹波大納言小豆など、元々ある貴重で豊富な地域資源にさらに磨きをかけることで観光客を魅了しています。
- ・観光を生業とするNPO団体や民間事業者が増え、6次産業とも連携した観光関連産業で働く人が増えています。

実現に向けた取組項目

観光振興の拠点の整備／体験メニューの強化／地域内バスネットワークを補完する末端交通の充実・強化／丹波竜化石工房「ちーたんの館」の機能拡充・丹波竜の里づくり／効果的な観光情報の発信／公共交通アクセスの充実



地域に根ざした生業のあり方

【まちの姿】

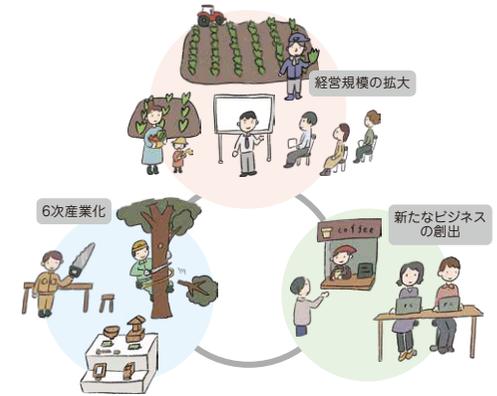
- ・農業及び関連産業に従事する経営体や後継者の確保により、基幹産業として農業が活性化し、耕作放棄地の減少、遊休農地の利活用など豊かな農村環境が維持されています。
- ・地域の特性を活かした産業を活用し、付加価値を生み出す新たな産業や農産品の生産・加工・販売を行う6次産業化などの多様な産業が創出されています。

【暮らしの姿】

- ・農業においては若い世代の後継者ができ、法人化等による経営規模の拡大や6次産業化が図られ、就農者が増加するなど農業や関連産業に従事する市民が増えています。
- ・起業や新規企業立地が進むとともに、既存企業も活発に事業活動を展開し、地域においてもコミュニティビジネスが発達するなど、多様な仕事の機会が創られています。

実現に向けた取組項目

公的森林整備の体制構築／遊休農地・耕作放棄地の解消／新技術を活用する企業の誘致／地域を支える商店街づくりの推進／地域農業の担い手の確保／個店の後継者育成





【編集・発行・お問い合わせ】

丹波市 未来都市創造部 都市創造課

〒669-3692 兵庫県丹波市氷上町成松字甲賀1番地

TEL:0795-82-1001(代) FAX:0795-82-5448

<https://www.city.tamba.lg.jp/>